

# 成瀬の風

東成瀬村立東成瀬中学校

学校報：#17

発行：令和4年9月29日(木)

## 東中生活躍！秋田活性化選手権、少年非行防止弁論大会

9月24日(土)に、第3回秋田活性化中学生選手権県南大会(秋田魁新報社主催)が横手市の横手セントラルホテルで開催されました。本校からは3年生5名(R. Tさん(リーダー)、K. Sさん、S. Tさん、M. Sさん、Y. Tさん)が参加しました。本校を含む8校の生徒が地元企業などを訪問し考案した地域活性化策を発表しました。本校の発表チームは、地元企業である(株)鈴木建設工業さんと共に、人手不足と高齢化の問題に直面する建設業界に、新しい人材をどう呼び込むかについて考えた取組を発表しました。



「緊張と感謝」 3年 R. Tさん

選手権の会場は人が多くてとても緊張しましたが、練習通りにできました。他の学校の人たちの発表は、いろいろな工夫がされていて勉強になりました。選手権に出ることができてよかったです。

「貴重な体験」 3年 S. Tさん

僕は「就職に悩む若者」でプレゼンをしました。練習ではリアクションや声の大きさに力を入れましたが、本番では緊張でいつもの精神状態ではなくなり、うまく話すことができるか不安になりました。しかし、他の学校の発表に圧倒されても、悔いなく発表できました。貴重な体験ができてよかったです。

9月26日(月)に、本校を会場として第60回横手地区少年非行防止弁論大会が開催されました。本校からは3年生のH. Tさんが弁士として出場しました。

8名の参加生徒はみんな緊張した表情でしたが、読み方に工夫を凝らしたり身振り手振りを入れたりしながら聴衆者に自分の主張を訴えかけていました。

H. Tさんは、「未来へのステップ」という演題で発表しました。Hさんは、会場全体に通るはっきりとした声で堂々と発表をしていました。聞いていた生徒たちは、Hさんの発表が終わった後、大きな拍手をして発表をたたえていました。審査の結果、見事優秀賞を受賞しました。発表原稿を裏面に掲載いたしましたので、ぜひご覧ください。



## 「夢見坂」車両通行止めのお知らせ

学校報12号でお知らせしていますが、現在、夢見坂(ジャンプ工場側の坂)の起点(国道342号線との交差点)から急カーブの手前までの95.5mの部分の工事が行われています。先日、**工事について新しいお知らせとお願い**がありました。内容は次の通りです。

内容：伊達堰に架かる橋の架け替え  
期間：令和4年10月5日(水)～11月5日(土)

橋の架け替えに伴い、**車両は終日通行止め**となるそうです。本校へ車でお越しの際は、**希望坂(小学校側の坂)を通行**するよう、お願いいたします。ただし、**歩行者については、歩行者通路を設置**するそうですので、今まで通り**夢見坂側を通行**できます。

学校祭が10月8日(土)に行われますが、この車両通行規制のため混雑することが予想されます。事故がないよう、十分ご注意の上通行をお願いいたします。

## 東中祭「入場申請書」について

東中祭の「入場申請書」の提出締切は10月3日(月)です。入場申請できますのは「同居しているご家族の方のみ」とさせていただきます。申請書には4名の記載場所がありますが、4名を超える場合には、申請書の裏面等に、同様の様式でご記入ください。

# 「未来へのステップ」

東成瀬中学校 3年 H. T

明日が閉ざされる——二年前に世界中に広がった新型コロナウイルスは、大勢の人に大きな影響を与えました。

世界各国で感染拡大防止のための対策が行われました。しかし、それと同時に、色々な問題も発生しました。医療問題、経済——新型コロナウイルスによって、これまでの私たちの生活や価値観は一変しました。そして、新型コロナウイルスは、私達、中学生にも大きな影響を与えました。

二年前、私は中学校への入学をとっても楽しみにしていました。それというのも、小中連携で見てきた中学校の先輩方はみんな輝いて見えたからです。私もあんな中学生になりたい——東中生の先輩方は私の憧れでした。

しかし、現実とは違っていました。コロナ禍により、私の中学校生活は、スタートから不安を感じるばかりでした。

例えば、感染拡大防止のための休校措置です。中学校に入学した後の休校は、新入生の私には、不安だらけの中学校生活のスタートとなりました。

中でも一番ショックだったのが、部活動です。二年前、コロナの影響で全県総体がなくなりました。三年間の集大成である全県大会がなくなり、先輩方はどんなに悔しかったでしょう。しかし、部活動の制約は未だに続いています。そうした事を含め、私は自分の中学校生活に対し、不完全燃焼な思いを抱えていました。

なぜ自分達の時だけこのようなひどい目に遭わなければいけないのでしょうか。義務教育最後の年にも、勉強や部活動に完全燃焼できない環境に、私はいらだちを覚えました。

明日が閉ざされる——私は、新型コロナウイルスに対してそう感じました。これまで「当たり前」に感じていた明日の存在が、自分の力ではどうにもならないことがあることを、私は知りました。

しかし、それと同時に、私は「当たり前」についても考えるようになりました。

健康でいられることの幸せ、学校でみんなと一緒に勉強できる幸せ、部活動を思いっきりできる幸せ、家族で温かいご飯を食べることができる幸せ——今まで「当たり前」と思っていたことは、大勢の人の協力によって成り立っていたことに私は気がつきました。また、それと同時に、自分は今まで「明日」という存在に頼りすぎていたのではないかと、とも思いました。

「今日」という一日は「今日」しかありません。だからこそ、精一杯自分のやるべきことを実行していかなければいけない、と私は思います。そう考えると、新型コロナウイルスは私にこれからの生活に対する意識を変えるきっかけになったともいえます。

新型コロナウイルスの収束については、残念ながらまだ先が見えない状態です。それは、十年以上かかるとも言われています。

十年後——私たち中学生は、社会に出て、みんなの生活を支える側になっています。誰もが経験したことがないこの状況を、私たちは、模索しながら前進していかなければいけません。

私は今の生活をどう過ごすべきかを考えるようになりました。そして、将来、医療関係の職業に就くことを決心しました。新型コロナウイルスで苦しむ人を一人でも多く助けたい、と思ったからです。

しかし、思うだけでは自分の夢を達成することはできません。だから、これからは自分の目標を実現するために、勉強を頑張っていきたいと思います。

未来へのステップ——明日へ踏み出す鍵は、みなさんの心の中にあります。未来に向かってみんなでステップを踏み出し、明るい未来をみんなで作りましょう。

私達なら、きっとできます。